

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日/2016年10月1日

発行/真宗大谷派(東本願寺)青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区藤訪町通六条下る上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp

徳乗寺 子ども会



蓮ちゃん通信 その①

2016年11月23日(水・祝)

真宗本廟両堂等御修復完了記念 子ども報恩講のつどい

「はじめての報恩講-東本願寺で子ども会-」

- 会場/東本願寺(御影堂・阿弥陀堂・同朋会館)
おたひろし
- お話し/太田浩史氏(高岡教区第3組大福寺住職)
- 参加対象/12歳までのお子さま、保護者・引率者
- 参加費/500円(精進カレーのお斎、記念品つき)
- 申込締切/11月11日(金)
※ただし、定員(200名)になり次第
締め切らせていただきます。
- 申込方法/青少幼年センター(☎075-354-3440)
まで直接お申込ください。
- ※詳しくは、『真宗』9月号・10月号をご覧ください。

人に出会うむずかしさ…

青少幼年スタッフ 比叡谷 紗誓

子ども会を始めて3年目になります。長期休みの間子ども報恩講で、これまでに8回開いています。隣の小学生や、お寺によく来られる方(子どもにとってはお祖母さんやお母さん)に連れられてくる子どもが、参加してくれています。

実際のところ、毎回あわわバタバタして、子どもの話す言葉に耳を傾けている余裕が、私にはありません。「来てくれている子どもだけでなく大人をも、どうやってうまくまとめるか」、「大過なくイベントをこなし、みんなに楽しかった思い出を持って帰ってもらおう」なんてところに意識がいついて、肝心の子ども一人ひとりと向き合っているかと問われたら、返す言葉もありません。子どもの言葉どころか、終了後に「さて今日の参加者の名前は…?」と云っているくらい。

そんな私の状況を見透かしたように、輪から抜けていってすわる子が出ます。そうして、否が応でもひとりごと向き合っつけかけをいただいているのかもしれない。

そして、特別子どもと遊ぶのが得意でもない私が、なぜ子ども会をしているのか…。

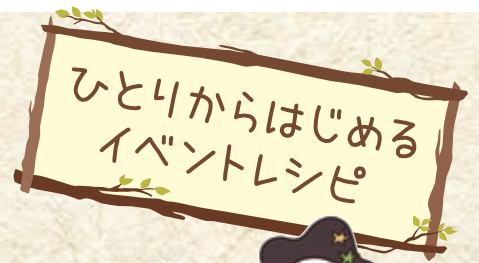
…ただ、大人も子どももお寺に来てほしい、そう思うのです。



子どもたちと勤める

子ども報恩講

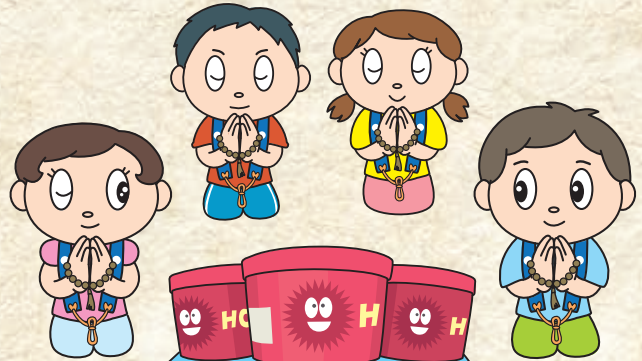
～お華束のなるほど! アイデア～



お餅の代わりに、子どもたちの好きなお菓子を盛って「お華束子ども報恩講バージョン」を作ってみよう!

作り方はカンタン!

- 1 箱がしっかりしているお菓子を選びます。
- 2 仮に箱を積んでみて、バランスをみます。
- 3 形が決まったら、両面テープやセロテープで倒れないように固定します。
- 4 ^{そな}お備えします。
- 5 報恩講終了後、お下がりとしてみんなで分けていただきます。



カンタン!
たのしい!

お華束作りをはじめ、
報恩講の準備(おみがきなど)も
子どもたちと一緒に行うのも
いいですね。

蓮ちゃん通信 その②

青少年センターが取り扱う
教材・記念品は、真宗大谷派寺院・教会
専用サイトでご覧いただけます。

寺院における子ども会等でお使いいただける各種
教材を用意しています。子ども報恩講をはじめとし
た諸行事の記念品として、ぜひご活用ください。

真宗大谷派

検索

→「寺院・教会専用サイト」→「各種物品販売」
ID・パスワード(全寺院・教会共通)
ID:higashihonganji パスワード:otaniha



「いのち」の重さ

大谷大学准教授・金沢教区 藤原 正寿 ふじはら まさとし

自坊では、現在四月から十月までの月一回と、夏休み中の五日間、「浄秀寺子ども会」を開いています。

夏のつどいの二日目にはお抹茶の頂き方をみんなで習いました。「わー私、お抹茶飲むの初めて。一度飲んでみたかったんだ」と大喜びする子どもいて、「暑い、熱い」と言いながらもお菓子につられてか、おかわりをする子どもたくさんいました。きちんと正座してお辞儀の仕方や、ご挨拶も上手にできるようになりました。

三歳から六年生までという年齢が異なる子どもたちの集まりですが、ゲームをしても、つまく小さな子ども仲間に入れて、みんなで仲良く遊んでいる姿は「わたくしたちは、ほとけのごともになります。わたくしたちは、ただしおしえをききます。わたくしたちは、みんななかよくいたします」のちかいの言葉、そのままでの姿を見るようでした。年齢が違えば、できることも違ってきます。上手にできる子ばかりではありません。でもそんな能力の差を超えて、たとえ足手まといになる小さな子がいっても、違いは違いのままに受け入れて、同じ時間を楽しく過ごすことができるのです。大人である私た

ちは、仲良くできるもの、つまりは自分の染しみの邪魔をしないものだけ付き合ひ、自分とは異なる価値観や力を持つものを排除しようとしてしまいがちです。子どもたちの姿から、仲良くするということとは、まさにこういう事なのかと教えられます。

インドの古典に、次のような説話があります。

あるところに、とても心の優しい王さまがいました。

あるとき一羽の小鳥が王さまのところに飛んできて訴えます。「王さま、助けてください。私は今、大きなタカに

子どもたちと聞く法話

追われて、ここに逃げて参りました。このままでは私は、タカに食べられてしまいます」。かわいそうに思った王さまは、小鳥を懐にそっとかくまいます。

するとそこに一羽の大きなタカがやってきて王さまにいます。「王さま、今ここに小鳥が飛んできたでしょう。その小鳥を私に差し出してください。その小鳥は、私の獲物なのです。もし小鳥を食べなければ、巢にいる三羽の私の子どもたちは、飢え死にしています。どうか私に小鳥を返してください」。王さまは、悩みました。小鳥を差し出せば、小鳥は食べられてしまい、差し出さなければこのタカの子どもが飢え死にしまう。

そこで心優しい王さまは、大きな秤を用意して、秤の一方にそっと小鳥をのせると、もう片方に、小鳥と釣り合うだけの肉を自らの体から切り取り、のせました。ところが、どれほど肉をのせていても、秤はいつも小鳥の方に傾いてしまつのです。

そのとき王さまは、ハッとあることに気づきました。そして、小鳥の反対側の秤の上に、そっと座ってみました。すると、それまで小鳥の方に傾き続けていた秤が、ちょうど釣り合ったのです。

私たちは、小鳥の重さを何十グラムなのかとしか考えられません。しかし、小鳥の重さも、タカの重さも、一国の王で

あり地位も名誉もある人の重さも、「いのちの重さ」に違いはないのです。私たち大人は、いつの間にか世間的な価値観でいのちを観ることが当たり前になってしまっています。子どもたちの方から、こちらがその間違いを教えられるのが子ども会の醍醐味でもあります。

正信偈のお勧めも上手にできるようになりました。毎月の浄秀寺の「正信偈の会」で親鸞聖人の教えのすべてが凝縮され網羅されているのが正信偈であると話しています。正信偈の言葉はどれをとっても、一つ一つが大切な仏法の教えであり、同時に私たちに願われている、ほごけさまのご本願の呼びかけであると学んできました。そんな正信偈を子どもたちが覚えてくれることは、今はまだどの意味もわからなくても、それだけで、親鸞聖人の教えに触れていることになると思います。真宗門徒が朝夕に正信偈のお勧めをするのは、そこに親鸞聖人の教えがあるからなのだなど、改めて気づかされたことでした。

お勧めをしたり、はしゃいでいたりする子どもたちを見ると、どの子ども一人ひとりみんなそれぞれの持ち味があって、決して「いまどきの子ども」なんて言葉でひとくくりにほごけない豊かなにげんなのだと教えられました。

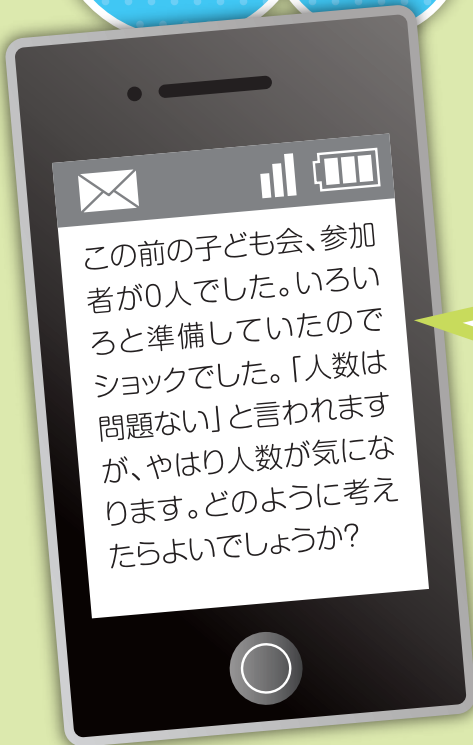
これからも、ともに手を合わせる、ともに遊ぶ、そしてひとりひとりと出会う子ども会を続けていけらと願っています。



Re:

サガエさんおしえて

子ども会での悩みや困りごとをサガエさんにお尋ねするコーナーです。



この前の子ども会、参加者が0人でした。いろいろと準備していたのでショックでした。「人数は問題ない」と言われますが、やはり人数が気になります。どのように考えたらよいのでしょうか？

さがえ なつみ
佐賀枝 夏文

1948年生まれ。大谷大学名誉教授。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は高倉幼稚園長で青少年センター研究員。カウンセラーネーム「サガエさん」です。東本願寺出版より最新刊『すべてが君の足あとだから—人生の道案内—』発売中。



あなたの
お寺の子ども会の写真で
巻頭を飾りませんか？

蓮ちゃん通信 その③

子ども会情報募集中!

「お寺にどう子どもたち」の写真や動画など子ども会の内容をお寄せください。巻頭写真に採用された方には、東本願寺キャラクターグッズをプレゼントします!

宛先は、「郵送」または「E-mail」
oyc@higashihonganji.or.jp
「ひとりから」子ども会情報係まで



親子に開かれた子ども会

子ども会の参加の数は、毎回主催者として気になるところです。参加者が期待どおりだと主催する「意欲」や「勇気」の源になります。ご準備されて参加者が少ないと、さぞ、落胆されたとおもいます。では、ごいっしょにこの問題に取り組んでみましょう。

現在の子どもを取り巻く環境を考えたとき、「放課後の多忙な子どもたち」「見守りのなかで、遊ぶ子どもたち」と、かつてのように自由に遊ぶことが減っています。子ども会への参加の度合いとも多少関係があるかもしれません。そのことからしても、「お寺の子ども会」が維持されていくことに意義を感じます。

子ども会は、子ども主体の集いなのですが、「親子」と考えてみてもいいようにおもいます。「親」同士がこころを開いて話し合う「場」の必要性を感じます。保護者という役割から解放された「場」で、親同士の出会いがあり、「お寺」という「場」で、解放された時間があるといいとおもいます。

「ピアカウンセリング」という言葉を聞かれたことがあるかもしれません。「ピア」は「仲間」という意味ですから、子育て中の親同士が語り合い、支え合うというカウンセリングのことです。孤立している「親」、ささいなことが打ち明けられない「親」に、「お寺」を解放してはいかがでしょう。

呼びかけは、「お寺」でいい時間を過ごしてみませんか、「親」も参加できる「子ども会」というのはいかがですか。

子ども会の悩みや困りごとをお寄せください!

これから子ども会をはじめようとする方や、すでに開かれている方のご質問に「Re:サガエさん教えて」のコーナーにてお答えします。

宛先は…oyc@higashihonganji.or.jp

編集後記

◎昨年の自坊の子ども報恩講は、参加者が一人でした。動揺しましたが、予定通りお勤めやゲーム、おやつを共にし、最後まで笑顔いっぱいの子どもにただ救われました。忙しい忙しいと言いつつ過ぎていくこの季節、報恩講をどういたしたかを改めて問われた出来事でした。
(編集長)

◎今年の「子ども報恩講のつどい」は、両堂等御修復完了を記念して勤められます。また十一月二十日には、両堂等御修復完了奉告法要のオープニングとして加賀献木木遣り行列と「組曲 廟堂頌」の演奏が行われ、青少年の参加も予定しています。無数の人々の願いがかけられた両堂再建の歴史や御修復完了に思いを馳せ、今を生きる「ひとり」として、過去・未来を背負った現在を確かめたいと思います。ー御影堂門も新たに秋高しー
(青七主幹)

